

# 戦争と平和についてのおはなし会 ～道下小学校～

令和元年7月26日(金)に、道下小学校6年生を対象として「戦争と平和のおはなし会」を開催しました。



戦時中の展示物や沖縄戦の資料も  
おはなし会の前後に  
近くで見ました。

実際に起きた出来事の時系列に合わせてまず最初に、富山大空襲を体験した五島さんのお話を元にお話を楽しむ会のボランティアさんが作られた紙芝居を読み聞かせてもらいました。



次に、8月6日、9日に広島長崎に投下された原子爆弾のことを学ぶために『被爆の爪跡』を視聴しました。



**DVD を視聴することで  
映像をとおして原爆の被害を  
学ぶことができました。**

原爆で被爆した息子について書かれた保田綾子さんの原爆詩、長崎で実際に被爆者を看護した親族の話など被爆に関わる体験談を静かに聞きました。



生々しい戦争の話を  
しっかりとボランティア  
さんを見つめてお話を聴  
きました。

最後に、参加者全員で原爆詩を朗読してから、原爆や戦争で亡くなられた方のご冥福と世界の平和を祈って黙とうをささげました。

令和元年 7月28日(日) 北日本新聞

(第3種郵便物認可)

### 戦争と平和を考える

**魚津** 魚津市は26日、同市道下小学校で「戦争と平和についてのおはなし会」を開いた。6年生54人が、広島と長崎の原爆や富山大空襲に関する体験記の朗読を聞いた。市図書館の読み聞かせボランティア「おはなしを楽しむ会」の大崎恵美子代表(75)＝写真右一＝や浜淵静枝さん(78)が朗読し、当時の暮らしを伝えた。長崎県出身の櫻坂鈴香さん(72)は、被爆した親せきや教師から聞いた悲惨な状況や癒えぬ心の痛みを語り、「戦争は人の手で止められる。身近ないじめや暴力をなくすことも平和への一歩」と呼び掛けた。児童は静かに聞き入り、最後に黙とうした。

令和元年 7月30日(火) 毎日新聞

## 平和について考えて

富山大空襲から74年になる8月9日や15日の終戦記念日を前に、小学生と平和について考えてみようという「戦争と平和についてのおはなし会」が26日、魚津市立道下小学校で開かれた。一筆核平和宣言都市の同市が2005年から毎年、希望する小学校を募集して利用していた学校では、今年同小の6年生54人が参加した。会場には、油桶戦を記録した写真約20点や、防空頭巾やヘルメットを取り出し、夜に燃える毎日校庭の隅で息を吐いた。【富山県魚津市】

富山大空襲から74年になる8月9日や15日の終戦記念日を前に、小学生と平和について考えてみようという「戦争と平和についてのおはなし会」が26日、魚津市立道下小学校で開かれた。一筆核平和宣言都市の同市が2005年から毎年、希望する小学校を募集して利用していた学校では、今年同小の6年生54人が参加した。会場には、油桶戦を記録した写真約20点や、防空頭巾やヘルメットを取り出し、夜に燃える毎日校庭の隅で息を吐いた。【富山県魚津市】

絶えなかったと生々しく証言した自身も被爆者で真夏でもハイネックの長袖、長ズボン姿だったため知らず知らずのうちに下腹を見せられ、縁談も破綻したと泣きながら話してくれた。涙が止まらず、今でも心に残っている。「涙が止まらず、今でも心に残っている。」と語り、平和の大切さを語り、今日聞いたことを広く発信し、と語り、森心優さん(72)は「原爆の写真は怖くてぞっとした。戦争は炎で通い、人の手で止められるという話が印象に残った」と話していた。【富山県魚津市】